

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

講演会「ボランティア活動を通してみる日豪の奉仕文化の比較」

著者	曾 士才
出版者	法政大学国際文化学部
雑誌名	異文化
巻	14
ページ	43-44
発行年	2013-04
URL	http://hdl.handle.net/10114/7881

講演会「ボランティア活動を通してみる 日豪の奉仕文化の比較」

報告者：曾士才

1. オーストラリアにおける奉仕文化の社会的位置づけや社会的環境、2. 阪神淡路大震災とオーストラリアの大洪水におけるボランティア活動の比較、3. 東日本大震災に対する社会貢献のあり方を柱に話していただいた。

氏の話によると、オーストラリアでは自発的で、無償、利他に基づくボランティア活動が社会に定着しており、多様なボランティアに関する求人情報サイトの存在や企業が従業員のボランティア参加を奨励したり、参加しやすくする種々の工夫（給料からの少額寄付の天引き、従業員の社会貢献の公表など）を施している。ボランティアへの訓練やボランティアに対する国や自治体の表彰制度、税制上の優遇措置も充実している。

2011年のオーストラリアにおける洪水では、州政府発信のツイッターや既存のネットワーク、メディアの参加により、大規模で有効なボランティア活動の展開が可能となり、地域住民も自ら災害ボランティアの役割を担った。

一方、日本では1995年の阪神淡路大震災を契機に、NPO法制定、災害ボランティアの受け入れシステムの構築などが進み、新潟地震や今回の東日本大震災でもその経験が生かされたという。法政大学のこの一年間の取り組みにも触れながら、日本に奉仕文化を一層定着させるために国、企業、NPO、メディアが担うべき役割や個人にできることについて、考えさせられる有意義な講演内容であった。

-
- 日時：2012年10月3日（水）午後5時
 - 場所：ボアソナードタワー 3階0300教室（マルチメディアスタジオ）
企画：曾 士才
 - 演者：小村輝代（外国人客員研究員。オーストラリア南クイーンズランド大学講師）
 - 演者紹介：

神戸生。2011年Griffith Business School, Griffith UniversityでPhD（博士）取得。2010年よりLecturer of Accounting, University of Southern Queensland. 専攻分野：非営利企業の会計学、研究分野：自然災害と効果的公的および人的貢献、企業貢献と個人貢献。論著：Omura, T. and Forster, J (2012) Sustainability of charitable organisations on the special issue for the International Journal of Business, Building Sustainable Communities. Omura,T. and Forster, J (2013) Competition for Donations and The sustainability of Not-for-Profit Organisations, Upcoming on the Humanomics The International Journal of Systems and Ethics.
